

16. 北部地域における飼料用トウモロコシの栽培推進及び 乳牛への給与効果検証

北部振興局・1) 西部振興局

○坂本悠・中原菜奈子・林佑亮・池上哲生¹⁾

【背景・目的】

令和4年度に県が主体となって設立した大分県飼料広域流通協議会は、県内各地の耕種農家、コントラクター、酪農家の3者で構成されており、近年の飼料価格高騰が畜産経営を圧迫するなか、世界情勢に左右されない県内産飼料の安定確保に向けて、耕畜連携による堆肥を活用した青刈りトウモロコシサイレージの生産及び利活用に取り組んでいる。

北部管内は、宇佐市を中心に広い水田を有しており、イネWCSの取り組みを通じて耕種農家と連携していたコントラクターを核とした飼料用トウモロコシの生産拡大が可能と考えられたことや、管内での飼料確保を進める必要があったことから、作付推進および栽培指導を行い、酪農家への給与効果検証を行った。

【取組内容】

(1) 耕種農家への作付推進及び堆肥のマッチング支援

- ・市や再生協と連携し新規栽培希望者を抽出
- ・栽培希望者との協議
- ・コントラクター及び酪農家とのマッチング支援
- ・堆肥供給農家と耕種農家とのマッチング支援

(2) 安定確保を目指した栽培指導

- ・栽培圃場の準備（特に排水対策）及び適期防除の指導
- ・収量調査結果の分析及び栽培指導

(3) 酪農家への給与による効果検証

- ・飼料代への影響の検証

【成果・残された課題】

本取組により、トウモロコシの栽培面積は協議会発足時の31.9haから77.8ha（管内76.3ha）まで拡大し、利用酪農家戸数は4戸（管内1戸）から7戸（管内4戸）へ増加、北部管内酪農家への供給は全体の3割を占め、管内酪農家の飼料確保の一助となった。今後は、安定収量が期待できる春播きの拡大推進に取り組んでいくとともに、農地の集約や新規コントラクターの育成等、新たな取り組みについても検討していく必要がある。

残された課題として、給与した管内酪農家の飼料代は搾乳牛1頭あたり平均120円/日増加する結果となったが、利用者からのニーズは高いため、乳量、乳質、受胎率など収益性に与える影響を今後明らかにした上で、飼料用トウモロコシ給与の技術確立と普及につなげていきたい。